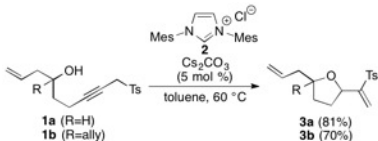


26C-am03S

NHC を用いるスルホニルアルキノールのスルホニル基転位を伴う環化反応
山田 健一¹, ○王 胤力¹, Oriez RAPHAEL², 山岡 庸介¹, 高須 清誠¹ (¹京大院薬, ²微化研)

【目的】我々は、含窒素複素環カルベン (NHC) を用いるプロパルギルスルホン部位を有する第 1 級アルコールのスルホニル基転位を伴う環化反応を報告した¹⁾。反応の基質適用範囲拡大を検討したので報告する。

【結果】カルベン前駆体 **2** と炭酸セシウムのトルエン溶液に、第 2 級アルコール **1a** を室温で加えて、60 °C に昇温した後数時間攪拌したところ、テトラヒドロフラン **3a** が 81 % 収率で得られた。第 3 級アルコール **1b** を用いても反応は良好に進行し、環化体 **3b** を 70 % 収率で与えた。



1) 第 134 回日本薬学会年会 28R-pm12 (2014, 熊本).